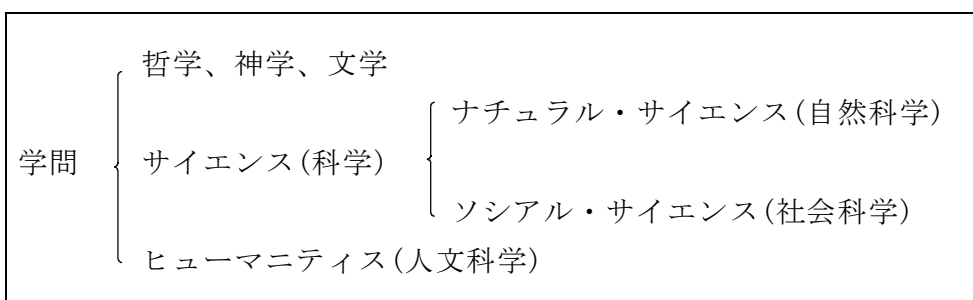


村上篤直著「評伝 小室直樹(上)―学問と酒と猫を愛した過激な天才―」ミネルヴァ書房 2018年9月20日刊を読む

## 社会科学とはなにか

1. (1) 小室の学問方法論のエッセンスはこうだ。
- (2) ルネッサンス以降にできた近代科学は学問の中に入るが、学問には、哲学もあれば、神学も、文学もある。また、人文科学、ヒューマニティスもある。
- (3) 学問の全体像は、次のとおりである。



2. (1) では、科学とは何か。
- (2) 科学であるかないかの<sup>ものさし</sup>規準は、研究対象ではなく研究方法にある。
- (3) すなわち、科学であることの必要十分条件は、次の三つである。
  - ① 理論と実証が分化され、統合がされていること。
  - ② 理論とは完全理論であること。
  - ③ 実証とは完全な実証計画法を伴った実証であること。
3. (1) ①理論があって、実証があって、しかも、その両者が統合されていることだ。
  - ② 理論と実証との分化と統合があれば、超能力だって、超古代史だって、どんな対象だって科学になるのである。
  - ③ まず、理論。科学的理論は、単なる仮説、モデルである。
- (2) ① さしあたり、現実はまったく考慮しなくてもよいが、公理論的理論である必要がある。公理論的理論とは何かというと、「公理からすべての定理が導き出されるような理論」である。
  - ② ただ、必ずしも公理系そのものである必要はない。社会科学においては、川島武宜の提唱した「theory by postulation」の考え方もよいと考える。研究者の要請する(postulate)いくつかの仮定、公準から体系が導き出されたものでもよし、とする。
  - ③ そうして、このような理論を、実証できるように、実験できたり観察できたりするように、<sup>オーバー</sup>外部的(overt)かつ<sup>メジャラブル</sup>測定可能(measurable)な変数を用いて再構成することが必要である。これが、理論の操作化である。

(3)①次に、実証。科学的実証とは何か。

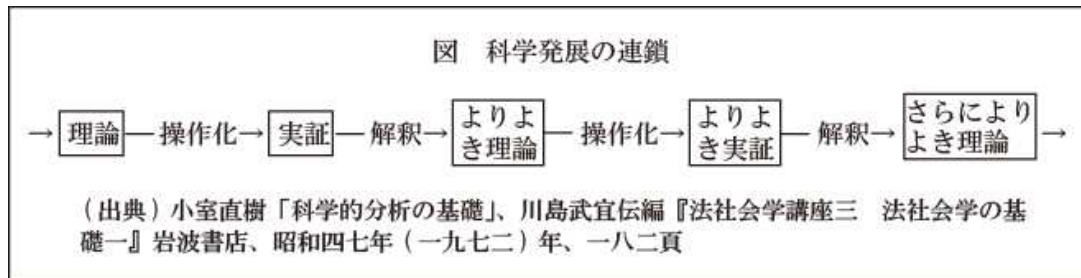
②それは、現実に照らして検証されるべきことは当然として、(一)検証法が計画化され、(二)特定の理論の検証を目指すものでなければならない。

③実証の結果によって、最初に立てられた理論、すなわち、仮説の妥当性が問われることになる。結果、よりよき理論が新たに形成されることになる。このプロセスが実証の解釈である。

4. (1)このようなプロセスを経て、科学はつねに、よりよき理論を目指して進歩する。この進歩のプロセスは無限に繰り返され得るから、科学の進歩は無限である。

(2)これを「科学発展の連鎖(chain of scientific development)」という。

(3)これが小室の理解する学問方法論であり、小室自身が使った学問方法論であった。



P508 ~ 511

<コメント>

小室先生の学問とは何か。学問の全体像(学問体系)とは何か。科学発展の連鎖とは何かについての考えは、日々の活動にも参考になる。大いに学ばせて頂きたい。

— 2018年10月26日(日) 林明夫記 —